



空を見あげると青空。食欲の秋だ。まさに「天高く馬肥ゆ」。この青空、どこまでも高く広がっているように感じるが、雲が到達する高度は最大でも12、3キロ程度で、気圧も地上の約5分の1だ。青空は上空の酸素や窒素分子が太陽光に含まれる青色系を一番強く散乱し、目に入るために起きる。

中緯度の上空では、偏西風と呼ばれる西寄りの風が南北に蛇行しながら、地球を取り巻いている。南への蛇行=図参照=の場合、西側では北西の冷たく乾いた空気が流れ込むので空気が



2015.10.4

「気象コンパス」主宰

古川武彦

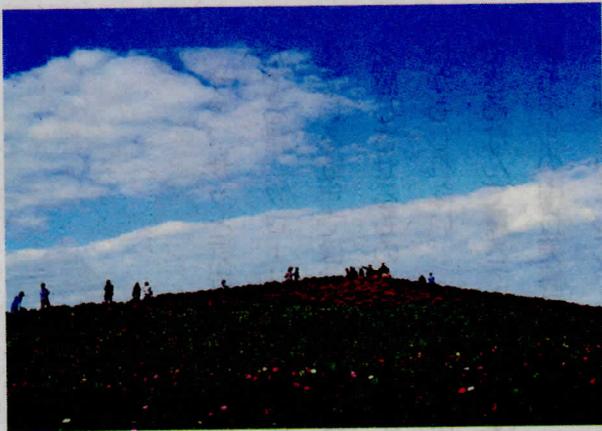
天高く

澄み、青さが一層目に染みる。逆に東側では南西の暖かく湿った空気が流れ込むので、大気も不安定で、曇天や雨になりやすい。しかし、秋は「霧（もや）」が生まれにくいいため空が澄み、青空もきれいだ。

偏西風の蛇行は、暖かい空気を北へ、冷たい空気を南へ運んでくれるので、一方的に北極が冷え、赤道が暖まることはない。ときどき蛇行が大きくなってとどまる。「ブロッキング」と呼ばれ、蛇行の位置に応じて、冷たい、あるいは暖かい天候が続くことになり、異常な低温や高温が出現する可能性がある。

スパコンを用いた気象庁の数値予報モデルは、こんな異常な天候を2週間程度前から予測することが可能で、「低温（高温）に関する異常天候早期警戒情報」が発表される。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



連日の気持のいい天気誘われて国営ひたち海浜公園を訪れた。「みはらしの丘」では、コキアが色づき始め、コスモスが咲いていた。この晴天、中国大陸から日本列島にかけて「帯状高気圧」と呼ばれる高気圧帯が東西に連なって、居座っているからである。

上空を見ると、日本付近は気流が合流する場で、空気の収束域（たまり場）となっている。立体的に眺めれば、地上付近で高気圧から周囲に吹き出す空気を、上空からの下降気流が補っ



2015.10.11

「気象コンパス」主宰

古川武彦

深まりゆく秋

ていることになる。上空から空気が沈降してくる際、下層の高い気圧で圧縮されるために暖まり、また乾燥するので雲はできにくい。空は澄み「天高く…」が続く。

一方、日が沈む時刻も早くなってきた。昼間の時間が短くなっていくスピードをみると、夏は1カ月間で20分くらいだったが、秋は1時間程度と3倍も速くなる。まさに「秋の日の釣瓶（つるべ）落とし」だ。

当然、地表に注がれる太陽エネルギーも減少するので、最高気温も下がり、朝夕の冷え込みも強まる。秋は一段と深まり、やがて県北や内陸部から霜が降り始める。

水戸での初霜の平年値は11月6日だが、最早は10月14日である。風邪を召さぬよう、冬物や暖房の準備を。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)